

2018年5月12日(土)「居場所を考える居場所」ノート(参加者9名)

——「居場所」とは何だろう。各々が感じる「居心地の良さ」や「居心地の悪さ」から輪郭を辿りつつ、「みんながいられる居場所」というものがありえるのかについて考えてみた。

### 「居心地の良さ」について

- ・仲間やもっと近い人、同じような感じ方を持っている方がいる場所。  
→ただ、同じ考え方というだけでは一緒に居られない。一緒に居るのが心地いい人というのがある。時間間隔や一挙手一投足の振る舞いなど、一見些細なところで、一緒に居るのがしんどい人というのもある。
- ・自分の経験したことを話せるところ。  
→家族に話してもしょうがない。職場でも通じない。ぐちっぽいことが外に出せる。話せてよかったなと思えてきたのは、その時の経験を話せるというのが良かった。
- ・よそでは言えないことを言える。  
→否定しないで聞いてもらえる。
- ・帰るところまでは行かないけれども、しんどい時に、過ごせるところ。  
→居場所の中に逃げ場所があると安心感。某支援機関は二階建の町屋を使った居場所で、中にひとりになれる避難場所がある。

### 「居心地の悪さ」について

- ・遊び・コンテンツを居場所でやる際の問題。  
→話題についていけなかったり、興味関心のない話題が場を支配していたり、排除されているわけではないが、そういう感じが起こるとき、居心地が悪くなる。友達とゲームしていても、そう思うときがある。比較せずにはいられない気持ちからのしんどさ。場に会話が無いことがしんどいのではなく、会話が起きているのに入ることができないからつらい。

### 「みんながいられる場所って、あるのか？」について

- ・居場所(コミュニティ)はパブリックではなく、自分たちの大切な物を誰かと分けあうコモンではないか。あるひとつの場所(コミュニティ)が、万人にとって居心地が良いというのはあり得ない話ではないか。  
→人が多様だからこそ、居場所も多様であって良い。キャンパスにたらしめた様々な絵の具の例を用いて…隣同士混ざり合いグラデーションのところもあれば、完全に混ざり合って別の色になった所もある。赤が好きなら赤でいいし、青が好きなら青でいい、両方好きならどちらも選べばいいし、混ざり合ったのが良いならそれも選べばいい。それぞれが押し付け合ったり、攻撃したり、正当性を主張し合ったりしない限りにおいて、いろいろな色があっていい。  
→場所(コミュニティ)同士は横断性を前提としたほうがいい。グループはローカルに多様に存在しているほうが望ましい。  
→大事なのは各場所(コミュニティ)が、そこに入ってみる前に、外から見て中身がなんとなくでもわかること。ピンクなら、「私たちはピンクです」と、表だって示されていること。参加してからの「排除」や「被排除」を防ぐために。

- ・その時の気分に応じて使い分けできるといい。棲み分け。  
→きゅうくつなものを感じていたが、それは別の居場所で楽になった。  
→居場所は自由と解放。交流人口が増える事で「考え方」から解放されて、自由を手にする。